



写真：第3回 仮装綱引き大会 提供：総務課



## 新年のご挨拶

副院長 矢尻 洋一

新年あけましておめでとうございます。平成最後の正月。そして新しい年号が始まります。

今年は十二支で一番最後の亥（イノシシ）年です。昔話では神様が干支の順番を決めるとき、イノシシは、本当は一番最初に着いたはずなのに、猪突猛進、止まり切ることができず神様の所を通りすぎて、戻ってきたときには他の動物に遅れをとってしまい最後になってしまったそうです。ユーモラスなお話です。さて

医療、医学も新しい発見があり、日々進歩しています。医療人であれば、その新しい治療、知見を何とか試し、実行したいと思うものです。また患者さんもそれを望みます。しかしより高度な治療やその結果を目指すあまり、患者さんの健康、喜び、幸せといった本当のゴールを見失ってはいけません。患者さんの声を真摯に聞き、誠実に診療にあたりたいと思います。昨年9月末からHCU（高度治療室）病棟の改修工事で入院病室が現在531室から487室に減少しています。皆様には入院治療で不自由をおかけすることのあると思います。春には工事は終了し、4月から稼働する予定です。

また当院の特色である、がん治療拠点病院として設備の充実を進めるべく、放射線治療棟増築工事も昨年から行われ、駐車場や病院周囲の交通で不便をおかけしております。5月に工事が完成します。より高度で安全な治療を提供できるよう努めてまいります。皆様から信頼され、選んでいただける病院になれるよう職員一同、病院全体で取り組んでまいります。今年も地域の皆様とともにある長岡中央総合病院をよろしくお願い申し上げます。

## 乳房再建について

乳癌は今や女性の12人に1人はいるといわれています。

乳癌で乳房を失った方は喪失感、人目を気にして温泉やお風呂などに行けない、それが原因で自信を持ってなくなり外に出られなくなってしまう、など様々な理由で生活の質（QOL）が下がってしまいます。

現在、日本では乳癌の術後に変形や欠損をきたした方に乳房再建を行うことが可能です。乳癌と診断されて手術に至るまでの間に、希望する方には術前に形成外科の受診をしていただいています。患者さん向けの乳房再建についてのパンフレットがいくつかありますので、それらを見てもらいながら今後の流れについて説明します。

乳房再建は一度で終わりません。段階をふんでのことになるのでまずそこを理解してください。乳房の切

除によって、乳腺組織はもちろんですが皮膚も一緒に取られてしまうため、足りない皮膚を伸ばすところから再建は始まります。

乳房再建は、外科医が乳癌の手術を行った後に行います。乳房再建を検討したい場合は、乳癌の手術前にその希望を外科医にお伝えください。患者さん一人ひとりに適した方法を検討していきましょう。



記事担当

形成外科医長 渡辺 玲

## 冬期流行する感染症について ~インフルエンザ~

冬の感染症として、最も注意すべき「インフルエンザ」について、お伝えします。

インフルエンザは、インフルエンザウィルスにより引き起こされます。主に咳、くしゃみ、唾液などによるウィルスを含んだ飛沫（しぶき）が上気道（鼻・口・喉）に付着して感染します。予防接種は、感染を完全に予防することはできませんが、重症化は予防して、高齢者の死亡率と入院率を低下させます。ご高齢の方や基礎疾患をお持ちの方は、ぜひ接種して下さい。人混みでのマスク着用や外出後の手洗いも感染予防に有効です。また、患者さんが、マスクを着用すると飛沫の飛散を防げて、周囲への感染の拡大予防に有効です。

診断は、迅速診断キットを使うことが多いのですが、症状が出てから12時間以内に検査すると、本当はインフルエンザなのに検査結果が陰性になることがあり

ます。また、治療には、ノイラミニダーゼ阻害薬を使いますが、症状が出てから48時間以内に使い始めないと効果がありません。ですから、症状が出てから12時間から48時間の間に受診して、検査を受けて、治療を開始するのが、医療機関への最も賢いかかり方です。



記事担当

感染管理認定看護師 関 千代

## 薬剤部



現在、長岡中央総合病院で薬剤師がどんな仕事をしているのか、主な内容を紹介したいと思います。当院は、外来患者様に対して、基本的に院内処方に対応しています。診療、検査、お薬、会計等が全て同一施設内で完結する利点がありますが、患者様の希望により、医師に申し出て頂ければ、院外処方の対応も可能です。まず、外来患者様の院内処方せんの調剤を行っています。加えて入院患者様のお薬も調剤しています。また、当院でもがん患者様に対して、外来での治療が増加しており、その治療には注射薬がよく使われます。医師はその病気にあった注射薬を処方します。その処方は患者様の体重や体表面積等により、体に入れる注射薬の量が違います。薬剤師はその処方に基づき注射薬の調製業務を行っています。

また、患者様に対してお薬の内容を説明する服薬指導を行っています。お薬の効果を説明するだけでなく、副作用の症状、その頻度や薬によってはその重大さについても説明し、副作用についても観察しています。他にも表立って目立たない業務が多いのですが、これからも患者様の目線に立って尽力して行きたいと考えています。

記事担当：薬剤部長 鈴木 和吉

### 栄養科 ワンポイント コーナー



## 家族の1年の健康と幸せを願う 「おせち料理」



おせち料理には新年に幸せをもたらす<sup>としがみつま</sup>歳神様といっしょに家族そろって食べるごちそうとされています。料理にそれぞれどんな願いが込められているのでしょうか。

- ・紅白かまぼこ【魚のすり身を蒸したのもの】：日の出の象徴。
- ・黒豆【黒い大豆を甘く煮たもの】：まめ（誠実）に働き、健康に過ごせますようにという「無病息災」の願い。
- ・数の子【ニシンの卵を調理したもの】：子宝に恵まれますようにという「子孫繁栄」の願い。
- ・だて巻き【卵と魚のすり身を甘く味付けし、焼いたもの】：巻物に見立てて、知識が増えますように。
- ・きんとん【栗や豆、さつまいもを甘く煮て一部を裹ごしたのもの】：お金持ちになれますようにという「金運・商売繁盛」の願い。
- ・エビ：腰が曲がるまで長生きできますようにという「長寿」の願い。
- ・れんこん：穴があいていることから、先の見通しがよくなりますように。
- ・こぶ巻き【魚をこんぶ（こぶ）で巻いて煮たもの】：「こぶ=よろこぶ」から、喜びが広がりますように。
- ・田作り（ごまめ）【小さいイワシを干したもの。甘辛い味】：作物がいっぱいとれますようにという「豊作祈願」。

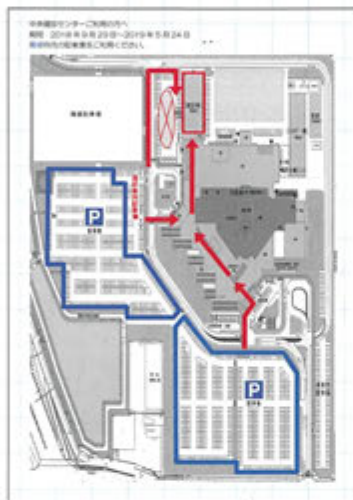


# 病院からのお知らせ

## ✓ 健診センターをご利用の皆様へ

当院では現在、放射線治療棟増築工事を行っています。工事期間、中央健診センター前の駐車場が使用できない状態となっています。病院の正面玄関、西玄関から入っていただき、中央健診センターへお進みください。

受診者の皆様にはご迷惑をお掛けしますが、何卒ご理解、ご協力いただきますようお願い申し上げます。



## ✓ スマイルプロジェクトを実施しました

10月中旬の2週間、スマイルプロジェクトと題し院内接遇委員会が企画した「あいさつ運動」を実施しました。正面玄関前、西玄関で病院管理者を含めた職員が、来院された皆様へ朝の挨拶を行いました。9月には入院患者様、外来患者様へアンケート調査を実施しています。皆様からのご意見を真摯に受け止め、これからも患者様へ安心、安全、満足感を届けられるよう接遇マナーの向上を目指してまいります。



## ✓ 10/27 ながおか農業まつりへ参加しました

平成30年度ながおか農業まつりへ病院職員20名が参加しました。JA越後ながおか及び関係団体、JA組合員の皆様と充実した1日を過ごさせていただきました。当院は「健康コーナー」を担当し、身体計測、血圧測定、骨密度測定等、市民の皆様と触れ合いながら健康を考える良い機会となりました。



## ✓ 第3回 仮装綱引き大会開催

院内レクリエーションとして、部署対抗の仮装綱引き大会がありました。日頃は院内各部署が連携して医療に携わっていますが、優勝目指し熱い戦いが繰り広げられました。

勝負もさることながら、独創的な仮装と真剣な応援に会場は盛り上がり、院内職員が一致団結して楽しみました。

